

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 30日

事業所名 リニエプラッツ阿波座

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	67%	33%		10名以上、高学年になると狭く感じる時がある。 →学習スペースとフリースペースを分ける。棚の移動など。
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	玄関段差(スロープ) 靴箱前に椅子用意など	玄関段差のスロープの幅を広げる。 トイレの段差(下肢の運動障害ある子への)個別対応にて対応
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	年1回社員面談を実施。 業務上の年間目標や振り返りを行い、全社員面談を行こなっている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	毎年10~12月に実施。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	毎年1~3月ごろに公開。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	25%	令和5年11月に社内部署の「制度対策室」にて自己点検、模擬実地指導を実施。	実施内容の周知徹底、改善策の話合いの場を設けて対応していきます。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	研修がとて充実している		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	ケース会議を実施し、利用児の現状把握・目標設定などを協議している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	14%	発達検査(外部療育先での実施)はアセスメントに使用している。	アセスメントツールの選定。法人事業所間にて協議・検討する。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	プログラム会議、曜日分担当をして立案を行う。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	利用児にアンケートを取ったり、季節に合ったプログラムを提供している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	88%	13%		より細やかに設定するため、月1回のプログラム会議やケース会議にて検討・協議していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別療育のプログラムを集団内での対応に生かして関わっている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝会、振り返りの実施 日案共有を細やかにしている	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	89%	11%	朝会、振り返りの実施 振り返りをよく行っている方だと思う。電子ツール(ラインワークス)を活用し、情報交換に努めている。	全曜日で振り返り実施ができていない場合もある →定期予定として振り返り時間を設ける、ラインワークスの活用方法を考える。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%			
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%			
21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	88%	13%		学校とのやり取りが保護者からの聞き取りのみ →支援級の先生との連携や学校行事予定の共有を進めていく	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	排痰介助、発作の緊急時対応を行っている。坐薬や吸入器の預かりにおいて、主治医からの「緊急時対応指示書」といただいている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	同法人事業所からの引継ぎケースの情報共有は十分に行われている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83%	17%		移行するケースが少ない。今後対象ケースが合った場合に、適宜対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%	専門機関主催の勉強会への参加をしている	ホームページ等より情報収集し、研修受講や訪問での助言へつなげる
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		近隣の子育てプラザの無料開放スペースへのお出かけを企画します。利用児、保護者の意見を伺いながら、交流機会について協議していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	67%	33%	西区子ども部会へ年3回、ボランティア活動に参加している。	積極的に参加しているが、会議内容の周知が行えていない →適宜、会議等で共有していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	50%	50%		保護者面談は適宜行っているが、トレーニング支援は行っていない。 →必要なケースは外部研修等を進めることも含めて検討していく
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時や利用費請求時に説明を行っている。
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	14%	86%		保護者からのニーズが少ないと感じる。 要望があったり、必要性がある時には保護者会開催を検討する。
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月ホームページにてブログ発信している。利用児にもブログ更新を告知している。	
35		個人情報に十分注意している	100%	0%		
36		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
37		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	14%	86%		企画や実施を行えていない。 →地域向けの行事開始も年間行事として検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	R5.4月に避難訓練を実施。マニュアル見直しと配布を行った。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	89%	11%	R511月に避難訓練を実施。	もう少し定期的に開催しても良いのではないかと →安全対策計画に基づいて、避難訓練機会を年2回とする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	現状、身体拘束が必要な状況やケースがない。 令和5年4月に該当児がないか検討会議済み。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	88%	13%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		一覧にして記録。会議にて共有している。